

天保十年三月下旬



於四條
川東
大徳丸
代備
圓雲長太徳
金借之面之裳

都羅豐盛會
万民の慈とてらふの仁者の政
はもろくおどけとくとい 此の文振

本亭 西上の市上焼の内とゆかりた玉殿の音琴

第貳 武士の忠出立付違とてはく湯水の黄金

第参 曙りの物まねのけりはのぬれ衣裳の赤揃

第四 菟子の男代い雨とてはひくまの白ゆ

第五 相撲あのおどけの能出ましたち母の玉歯

大切 蝶々道行
中京如良大門
振替飯酒即

海留屋 足本毛賀大夫
太被 田原右傳次郎

三味線 河波手門之助
大被 出番待之助

長唄 飛出出蝶吉
小被 朝長長復留八

披露 嶋岩岩宿次良
鉦 節本奉行當即

三後 切屋あせ丸
振附 鈴野心子即

狂言 浪花花丸
頭取 満討岸仙藏

作者 野村狐五郎

且力毎喚出大お入可シ

